

# 社会福祉法人 日本点字図書館

## 平成29年度事業計画

### 《重点項目》

#### はじめに

昨年4月に障害者差別解消法と改正障害者雇用促進法が施行され、障害者への適切な配慮の必要性についての認識が、社会の各方面に広がりつつある。このような法律と制度の整備に加え様々な技術が進展したことなどにより、障害者を巡る状況は、近年目立って変化している。それに伴い、視覚障害者には多くの可能性がもたらされ、新たなニーズも多く出現している。そのような状況の下で、本法人には、障害当事者のニーズに即した各種サービスの実施はもちろん、ボランティア等の支援者や合理的配慮を提供する官・公・民の組織との連携など、多彩な役割を担うことが求められている。そうした期待に応えるために、平成29年度は、定常的事業を着実に継続するとともに、以下の事項に特に力を注ぐ。

#### 1. 自立支援事業の開始

地域の視覚障害者のQOL（生活の質）の向上を支援することを目的に、自立支援事業を開始する。本法人がこれまでに行ってきた生活用具の販売、点字教室、IT教室、デージー再生機等の各種機器の操作講習会、見えにくさの相談会などの事業の実績を基盤にして開始の準備を進め、歩行訓練、コミュニケーション訓練、日常生活動作訓練、ロービジョン訓練などからなる「自立訓練（機能訓練）事業」と「相談支援事業」を、連動させて開始する。これらの事業では、例えば、触覚や聴覚、保有視力による読書のスキルの習得を目標の一つに設定できるようにするなど、本法人の特色を生かしたサービスを提供する。

#### 2. 読書の手段や方法についての啓発

視覚障害者の読書を巡る状況は、デージー、サピエ図書館、点字電子機器などによって飛躍的に改善された。しかしながら、それらによる新たな可能性を知らない視覚障害者や、新たな手段や方法に習熟する機会がないために利便性を享受できずにいる視覚障害者も少なくない。そのような対象者を積極的に見出して有用な情報や利用体験の機会を提供し、個々の読書環境の改善を支援する。

#### 3. ニーズとともに発展できる製作体制の整備

公的試験の実施者から試験問題の点訳や録音が多数依頼されるなど、製作現場に、より高い専門性や効率が求められるようになってきている。また、読むことに関する視覚障害者のニーズや手段の多様化も、近年の傾向といえる。そうした状況に的確に対応すると同時に、有用で利便性の高い図書や資料を先駆的に製作して利用を喚起してきたこれまでの先進性を維持し、発展させるには、点字製作（触知図や触知サインの製

作を含む)と録音製作(テキストデージーやマルチメディアデージーの製作を含む)の、実務担当人材の育成、設備や技術の充実、業務の効率化などを、改めて推進する必要がある。それらに向けての具体的な方策を検討し、実現を図る。

#### 4. 保有資料等の有効利用の促進

本法人が保有する資料的価値や歴史的価値のある資料と用具類が、適切に保存され、有効に利用されるようにするために、収蔵場所を確保して環境を整備するとともに、目録を作成して系統的に収納する。また、それらの保有物とその他の触察模型や用具類を展示して公開する「ふれる博物館」を、視覚障害者への情報や学習機会の提供と、視覚障害についての社会啓発を目的に、試行的に開始する。

#### 5. 広報活動の強化

国からの委託費が大幅に減額されるなど、経営環境が厳しさを増している。こうした状況にあっては、寄付者などの支援者の拡大、官・公・民からの補助金・助成金の確保などが重要な課題であり、それに取組むには、本法人に対する社会の理解が進み、より大きな信頼を得ることが望ましい。それゆえ、事業等の意義や効果についての情報を発信する広報活動を、これまでの実績を踏まえて強化する。

以上、重点5項目を記したが、上記を踏まえた各部、各課の事業計画を以下に詳述する。

### I 《社会福祉事業》

#### 視聴覚障害者情報提供施設の経営、全国の視聴覚障害者情報提供施設に関する連絡事業及び自立支援事業の経営

##### 1. 自立支援事業(新設)

---

今年度は自立支援室を新設し、以下の事業の準備と実施にあたる。

###### (1) 相談支援

主に中途視覚障害者の相談を受け、当法人の自立訓練につなげる。また、他の関連機関等を紹介するなどして、対象者が社会との適切なつながりを確保できるよう支援する。対象者数は年間約80人を目標とする。

###### (2) 自立訓練(機能訓練)

全盲者など、視覚の活用が困難な対象者には、歩行訓練、コミュニケーション訓練(点字訓練、パソコン・スマートフォン等のIT機器訓練、用具・機器等の使用訓練など)、日常生活動作訓練(家事訓練等)などの自立訓練を、個々のニーズに沿って円滑に実施する。視覚の活用が可能な対象者には、機器使用訓練等のロービジョン訓練を、見え方の違いによる個別のニーズに応じて的確に実施する。これらにより、視覚障害者のQOL(生活の質)の向上と社会参加を支援する。

###### (3) 見えにくさの相談会の開催

中途失明やロービジョンによる不安や困難を抱えている人に対する相談会を開催する。

## 2. 図書情報提供サービス

---

### (1) 点字図書・録音図書の貸出・提供

点字図書は年間 8,000 タイトル、録音図書は CD を年間 120,000 タイトル、録音雑誌「*にってんデイジーマガジン*」を読者 6,500 人、ダウンロードサービス 70,000 タイトルの提供を目指す。

### (2) レファレンスサービスおよび書誌データの整理

利用者が求める図書情報等を速やかに提供できるよう情報収集に努め、読書を支援する。また蔵書については、製作着手の流れがスムーズに進むよう、職員や当館の Web-OPAC 利用者が自ら検索し、さまざまな角度からのアプローチで本を探し出せるよう、常に当館目録規則に従った書誌データの整備に努める。

### (3) 迅速な図書選定と蔵書の充実

利用者ニーズに沿った図書の製作と提供を迅速に行うため、点字・録音図書の製作選定について即時選書を実施する。また、引き続き、出版される点字図書・録音図書の購入や、サピエ図書館にアップされる他館製作の完成図書などからも厳選して受入れを行う。

### (4) 「テレビ・デイジー」の利用促進

平成 28 年 10 月より開始した当館オリジナルのサービスである「テレビ・デイジー」について積極的な広報をするとともに、音声解説付きの番組情報を選定して、迅速に製作を行い個人利用者に提供する。

### (5) 利用者用目録の製作と提供

点字図書新刊案内「*にってんブレイル*」(点字版)と、録音図書新刊案内「*にってんボイス*」(録音・点字・墨字版)を隔月で発行する。「*にってんボイス*」の録音版は、「*にってんデイジーマガジン*」とサピエ図書館で提供し、録音図書目録については、「CD 図書年間追加目録 2017 年版」をデイジーで製作し発行する。

なお、墨字と点字による録音図書目録については、レファレンスサービスによる希望に応じたリスト作成で対応し、2017 年中に発表した点字図書、録音図書の点字版については「年間追加目録 2017 年版」をそれぞれ発行する。また、新刊図書が出るたびに内容更新する「シネマ・デイジー図書目録」(録音版・点字版・墨字版)を発行する。

### (6) 奥村文庫(視覚障害関係墨字資料室)

視覚障害に関わる情報収集に努め、関係者からの問い合わせに適切な資料と情報の提供で応じられるようにする。目録データをさらに充実させ、Web-OPAC による資料検索サービスの質を高めていく。また、前年度より改訂した件名標目表をもとに、過去に登録した件名標目の遡及修正作業を引き続き、実施する。

### (7) 点字教室・IT 教室の開催

平成 29 年度中の開始に向けて準備を進める自立支援事業との役割分担を考慮しながら、点字教室は、情報アクセス技術の向上を目的に、中途視覚障害者を対象に開催する。また、前年度より従来のパソコンにスマートフォンやタブレットを加えた IT 教室は、基本操作技術の習得とサピエ図書館の利用促進を目的とし、5 回コースで年間 8 期開催する。また、それらの IT 機器に初めて触れる人に対しては、予約制による 1 回 90 分、原則 1 回の操作体験クラスを設ける。

### (8) 自主活動の支援

点字教室を修了した中途視覚障害者に、館内で行う自主活動の場を提供する。

(9) サピエ図書館への製作情報の登録

サピエ図書館への点字・録音図書の着手・完成・所蔵情報の登録を迅速に行う。

(10) システムの安定稼働

サピエ図書館ならびに、当館の基幹システムである CLIS 図書館総合システムについて、安定的稼働に尽力するとともに、データベースサーバのリプレイスおよび、書誌データマーク<sup>\*1</sup>の変更や日本十進分類法<sup>\*2</sup>第 10 版への対応について、具体的に今後の方針を固め、実現できるよう検討する。また、国内の点字図書館の約 90% 以上が導入済みである Web 図書館システムの運用支援を行う。

(11) 学習障害や発達障害など、視覚障害以外の活字読書に困難を抱えた人たちへの録音図書の提供を引き続き行う。

※1 書誌データマークとは

株式会社図書館流通センター(TRC)が提供している本の詳細情報を網羅したデータベースを書誌データマーク(TRC マーク)という。

サピエ図書館や当館の CLIS 図書館総合システムではこの書誌データマークを使用して書誌(目録)データベースを作成しているが、現在使用している書誌データマーク U タイプが提供終了となり、T タイプへ切り替えを行う必要が発生している。

※2 日本十進分類法とは

日本の図書館で広く使用されている図書分類法のことをさし、本の分野を区分し、検索しやすいようにするために使われている。

### 3. 点字図書・触図等の製作

---

(1) 点字図書の製作

- ① 点訳書 150 タイトルと厚生労働省委託図書 30 タイトルの製作を行い、点訳データをサピエ図書館に登録する。
- ② プライベートのニーズに応えるため、希望点訳事業を行う。

(2) ボランティアの指導・養成

現役点訳者 85 名に対する点訳技術向上のための指導を行う。

(3) 点字図書の販売

約 1,000 タイトルの図書の頒布を行う。  
特色ある点字図書の企画と販売促進活動を行う。

(4) 教科書の製作

① 視覚特別支援学校理療科用教科書の製作

視覚特別支援学校理療科用図書編纂委員会編「医療と社会」の点字版及び点字版とデージー版のセット販売を行い、視覚障害生徒の学習に供する。

② 視覚特別支援学校高等部用教科書の頒布

視覚特別支援学校高等部用教科書「SELECT English Expression I」「SELECT English Expression I New Edition」「MY WAY English Expression II」及び「科学と人間生活 新訂版」を頒布し、視覚障害生徒の学習に供する。

③ 文部科学省著作教科書の製作

視覚特別支援学校中学部用教科書「社会(公民的分野)」を製作し、視覚障害生徒の学習に供する。

(5) 触図等点字サインの製作と監修

公共交通機関や企業などの依頼により、手すり点字銘板、点字運賃表、案内板等の製作と監修を行う。

#### 4. 録音図書・録音雑誌・電子書籍の製作

---

##### (1) 録音図書・雑誌の製作

###### ① 録音図書の製作

- ・館内製作分 200 タイトル
- ・びぶりお工房(録音図書ネットワーク製作システム)製作分 200 タイトル
- ・製作を完了した音声デイジーコンテンツをサピエ図書館に登録し、全国の視覚障害者等のニーズに応える。

###### ② 録音雑誌 月刊「にってんデイジーマガジン」の製作とサピエへの登録

###### ③ シネマ・デイジーの製作とサピエ図書館への登録

###### ④ テレビ・デイジーの製作

###### ⑤ プライベートのニーズに応えるため、個人朗読及び専門対面リーディングサービス(年間 300 人)を行う。

###### ⑥ ボランティアの養成

- ・朗読奉仕者の補充
- ・録音図書校正奉仕者の補充

##### (2) 池田輝子記念文庫製作事業

録音図書のネットワーク製作及びデイジー編集を行う。

##### (3) 電子書籍の製作

###### ① テキストデイジー図書

- ・自館選書分 400 タイトルの製作とサピエ図書館への登録
- ・リクエストによる 100 タイトルの製作と提供

###### ② マルチメディアデイジー図書

- ・一般図書 9 タイトルの製作とサピエ図書館への登録
- ・小学校算数教科書 3 タイトルの製作と提供

###### ③ ボランティアの養成

テキストデイジー、マルチメディアデイジー図書製作に伴う編集者・校正者の養成

###### ④ アクセシブルな電子書籍について、製作からサービスのあり方について、さらに検討する。

###### ⑤ 「アクセシブルな電子書籍製作実験プロジェクト」を継承し、今後の可能性を探る。

###### ⑥ 音声・マルチメディアデイジー教材製作 Web システムの改良と普及のための取り組みを行う。

#### 5. 厚生労働省委託事業

---

視覚障害者用図書等事業の委託を受けて実施する。

#### 6. 厚生労働省補助事業

---

視覚障害者図書情報ネットワーク運営事業の補助を受けて実施する。

#### 7. 東京都委託事業

---

(1) 東京都視覚障害者用図書製作貸出事業の委託を受けて実施する。

(2) 東京都視覚障害者用図書レファレンスサービス事業の委託を受けて実施する。

## 8. 東京都補助事業

---

都内貸出事業に対し、東京都から補助金を得て実施する。

## 9. 川崎市視覚障害者情報文化センター運営委託事業

---

指定管理者として川崎市視覚障害者情報文化センターを運営・管理する。

### (1) 閲覧・貸出

約 700 人(個人・団体)の利用登録者に対し、点字図書は年間 240 タイトル、録音図書は年間 11,830 タイトル、点字雑誌は年間 250 タイトル、録音雑誌は年間 4,570 タイトル、ダウンロードサービスおよびシネマ・デイジーも含めて、総貸出数は 18,800 件の提供を目指す。

### (2) 資料製作

利用者のニーズを尊重した図書選定を行い、点字図書は年間 40 タイトル、録音図書は年間 100 タイトルを製作する。また、テキストデイジー図書 10 タイトルを製作する。

「映像のまち・かわさき」の事業として、視覚に障害のある方々に映画を楽しんでいただく音声ガイドとシネマ・デイジーを 20 タイトル製作する。

### (3) 点訳者・朗読者・音声ガイド製作者等の養成

本年は点訳者養成講座を実施する。活動中の点訳者・朗読者・校正者を対象としたスキルアップ研修会を開催する。

「映画の音声ガイド製作ボランティア養成・スキルアップ講座」を開催する。

### (4) 訓練事業の取り組み

平成 28 年度からの訓練継続者を含め、延べ 70 名に歩行、生活、コミュニケーションなどの各種訓練を行う。それ以外に、訪問指導や来所指導といった短期間での訓練指導を延べ 100 回実施する。

視覚障害者のための日常生活用具と便利グッズの主なもの、最新のものなどを展示し販売紹介を行う。訓練と連携を密にし、訓練生にこれらの用具を紹介し、使用してもらうことで QOL の向上を図っていく。また、補装具・日常生活用具の制度や申請の方法を積極的に周知していく。合わせて図書館利用に繋げていくことを行う。

### (5) ボランティアとの協力、連携強化

ボランティアとの連携を密にして、図書製作・各種イベント等で協働していく。

### (6) 啓発普及について

① 福祉事務所での手帳交付時に当センターの事業案内ができるようにするためのパンフレットを、各福祉事務所、生活支援センター等、関連機関・団体へ配布する。

② 事業報告会を開催し、図書館事業・視覚障害者訓練事業の理解を深める。

③ 市内眼科医との連携を図り、中途視覚障害者に対する情報提供を図る。

④ 地域保健師、民生委員の協力を得て、在宅視覚障害者の発掘、情報提供を図る。

⑤ センターまで足を運ぶことが難しい利用者に対し、川崎市各区においてセンターを知っていただくための事業体験会を開催する。

⑥ 最新の情報をいち早くメールマガジンで伝えるとともに「アイ eye センターだより」を発行し広報活動に積極的に取り組んでいく。

### (7) 文化的活動について

音声ガイド付き映画体験会やコンサートなどイベントを開催する。本年度は新

しく、ボランティア運営主体でチャレンジド・ヨガ教室を隔月で開催する。

(8) 防災・減災対策の推進

発災時にセンター内にいる利用者、支援者、職員の安全、安心を確保する。災害への準備、心構えなど、視覚障害者が事前に準備しておくべきことを伝えると共に、視覚障害者向けの防災グッズなども紹介する防災イベントを開催する。

(9) 第26回視覚障害リハビリテーション研究発表大会 in 川崎&鶴見の開催に主管施設として取り組む。

10. 公的機関・団体・企業等からの委託及び助成・補助による事業

(1) 東京都消費生活総合センター CD版「東京くらしねっと」(年間6回)を製作し、送付する。

(2) 東京都教育庁 普通校に通う視覚障害者(高校2年生)のために教科書の点字版製作および提供を行う。

(3) 和歌山県教育庁 普通校に通う視覚障害者(高校2年生)のために教科書の点字版製作および提供を行う。

(4) 新宿区

① 「しんじゅくの教育」の点字版を製作し、配布する。

② 「広報しんじゅく」の点字版を製作し、配布する。

(5) 生活協同組合 点字・録音図書を製作し、貸出す。

(6) 社会福祉法人NHK厚生文化事業団

① 寄贈番組CDを受け入れ、貸出を行う。

② 「NHK障害福祉賞入選作品集」音声版を製作する。

(7) 社会福祉法人読売光と愛の事業団

① ロービジョンサービス事業を行う。ロービジョン機器等の相談に対応するとともに、遠方の利用者にはルーペ・レンズ類の見本を貸出しする。

② 専門対面リーディングサービス事業を実施する。

③ 関東地域の点字図書館職員を対象にロービジョンの研修を行い、ロービジョン支援機器を長期貸与する。

(8) 公益財団法人JKA 録音雑誌「医学研究」(月刊)及び「ホームライフ」(月刊)を製作し、配布する。

(9) 公益財団法人鉄道弘済会 録音雑誌「ブックウェーブ」(月刊)を製作し、配布する。

(10) 公益財団法人日本障害者リハビリテーションセンター 小学校算数教科書3タイトルのマルチメディアデージー版を製作する。

(11) 公益財団法人日本テレビ小鳩文化事業団 点字カレンダーを製作し、配付する。

(12) 公益財団法人東京都人権啓発センター マルチメディアデージー版「TOKYO人権」(年4回発行)を製作する。

(13) 公益財団法人早川清文学振興財団 録音図書「ハヤカワライブラリー」10タイトルを製作し、貸出す。

(14) 公益財団法人一ツ橋総合財団

①録音図書「一ツ橋文庫」10タイトルを製作し、貸出す。

②テキストデージーの製作・提供。

③音声・マルチメディアデージー教材製作 Web システムの改良と普及に取り組む。

- (15) 一般財団法人NHKサービスセンター 点字版「NHKウイークリーガイド」(週刊)を発行する。
- (16) 一般財団法人日本宝くじ協会 点字・録音・マルチメディアデージー図書を製作し、貸出す。
- (17) 一般財団法人日本メイスン財団 テキストデージー図書 60 タイトルのリクエスト製作と提供を行う。
- (18) 一般社団法人全国腎臓病協議会 CD版「ぜんじんきょう」(隔月刊)を複製、配布する。
- (19) 一般社団法人日本アマチュア無線連盟 「点字JARL NEWS」を製作する。
- (20) 株式会社岩波書店 岩波新書等の録音版を製作する。
- (21) 株式会社廣済堂 文京アカデミー情報誌「スクエア」(月刊)のデージー化を行う。
- (22) 株式会社佼成出版社 「立正佼成会会報」(月刊)のテープ版、CD版を複製する。
- (23) 株式会社資生堂 録音版「おしゃれなひととき」(季刊)を製作する。
- (24) ソニー株式会社 録音版「聞くカタログ」を製作する。
- (25) 株式会社トーハン 原本提供を受け、点字・録音図書を製作し、貸出す。
- (26) 株式会社文藝春秋
  - ①録音雑誌「文藝春秋」(月刊)を製作し、配布する。
  - ②原本の寄贈を受け、点字図書を製作し貸出を行う。

## II <公益事業>

### 盲人生活用具の開発と普及及び国際視覚障害者情報提供協力事業

#### 1. 視覚障害者用具の販売

---

顧客のニーズに合った販売斡旋事業を行うため、以下の点を重点項目とする。

- (1) 視覚障害者及び視覚障害者をサポートする人たちのニーズに合った商品・サービスを提供する。
- (2) 顧客のニーズに合わせた企画展、体験会を開催する。
- (3) インターネットショッピングサイト「わくわく用具ショップ」のパソコン版、携帯版を運営する。
- (4) 冊子体のカタログを新たに作成して、自治体や眼科医に配布することをはじめ、録音雑誌「にってんデージーマガジン」、インターネット上のメールマガジン、ターゲットを絞ったダイレクトメールなど、多様な手法で情報を発信する。
- (5) 視覚障害者のファーストコンタクトの場所としての利用が増えてきた現状を踏まえ、用具の販売は自立支援の入り口になりうることを意識し、自立支援室(新設)と連携して適切な用具や必要な情報を発信する。
- (6) ロービジョンのかたへ適切な補助具を提供するために、拡大読書器、ルーペ、遮光眼鏡などを備える。

#### 2. 厚生労働省委託事業

---

盲人用具販売あつ旋事業の委託を受けて実施する。



### 3. 池田輝子ICT奨学金事業

---

池田輝子基金により第14回池田輝子ICT奨学金事業を実施する。

実施期間：平成29年6月25日～7月7日 中級クラス  
平成29年7月7日～7月9日 エンパワメント講習  
平成29年7月10日～7月22日 上級クラス  
場 所：ペナン(マレーシア) セント・ニコラスホーム

### 4. アジア盲人図書館協力事業

---

一般社団法人霞会館助成により第三国研修に変更して14回目になるコンピュータ点字製作技術指導講習会を実施する。

## III <収益事業>

### マンションの設置経営

2棟のマンションを運営し、生じた収益を社会福祉事業及び公益事業に充当する。

## IV <本部事業>

### 1. 日本点字図書館オープンオフィスの開催

---

11月11日(土)、12日(日)に開催する。

### 2. 「ふれる博物館」を試行的に開設

---

分館において、当館で収蔵する盲人用具資料や、借り受ける模型を展示し、触察を有効なアクセス手段とする視覚障害者への多面的な情報提供の可能性を探り、発展を目指す。

### 3. 寄付・助成金の増収

---

毎年継続の維持会費、企業や諸団体助成金の増収に一層努力する(当館ホームページからの募金、愛のポストカード運動を含む)。

図書製作支援寄付であるワンブック・プレゼント運動に対し、企業・個人からの支援を募る。

### 4. 日本点字図書館カード会員の拡大

---

見学者、チャリティ映画会・コンサート、「日本点字図書館オープンオフィス」来場者に対して加入勧奨のパンフレットを配布し、加入者の拡大を図る。

### 5. チャリティ映画会・コンサートの実施

---

- (1) 9月21日にチャリティ映画会を実施する。平成30年春開催の準備を進める。
- (2) 第15回本間一夫記念チャリティコンサートとして、平成29年11月30日(木)東京文化会館小ホールで川島成道氏のヴァイオリンコンサートを開催する。

## 6. 第14回本間一夫文化賞の贈呈

---

創立者本間一夫を記念し、点字や視覚障害の分野で、研究や著述に顕著な功績をあげた個人・団体を顕彰する。

## 7. 第24回にっせん野路菊賞の贈呈

---

日本点字図書館の業務等について多大な貢献をされた個人・団体、あるいは視覚障害者の福祉・文化・教育等の分野において多大な貢献をされた個人・団体を表彰する。

## 8. 広報誌その他の発行

---

広報誌「にっせんフォーラム」(年4回、各5,500部)を発行し、当館の活動および視覚障害関係情報を広報する。また7月に「感謝録」(10,000部)を発行する。

## 9. にっせんカルチャー講座の開催

---

「折り紙教室」「囲碁教室」「エスペラント語教室」「英会話教室」を実施する。

## 10. 第2回国際視覚障害者囲碁大会東京大会の開催

---

社会福祉法人NHK厚生文化事業団、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団及び東京日本橋ライオンズクラブの助成により、NPO法人日本福祉囲碁協会との共催で、6月25日、リフレッシュ氷川(渋谷区)において第2回国際視覚障害者囲碁大会東京大会を開催する。

## 11. 防災イベントの開催

---

平成30年1月20日に、日本点字図書館と川崎市視覚障害者情報文化センターの共催で実施する。

## V <<会議・研修・福利厚生>>

### 1. 会議

---

- (1) 理事会の開催
- (2) 評議員会の開催
- (3) 評議員選任・解任委員会を必要により開催
- (4) 館内会議の開催
  - ① 部長会議 (随時開催)
  - ② 部課長会議 (毎月1回)
  - ③ 課長会議 (毎月1回)
  - ④ グループリーダー会議 (毎月1回)
- (5) 各委員会の開催(随時開催)

## 2. 研修

---

本法人の事業を担う職員にとって有効な研修の内容や方法を、他の法人等における事例を参考にするなどして改めて検討し実施する。

## 3. 福利厚生

---

- (1) 職員の健康診断、ストレスチェックテストを実施する。
- (2) 職員の福利厚生事業を実施する。

## 4. 防災

---

- (1) 防災・減災への取り組みを各課で実施する。
- (2) 避難訓練を2回実施する。